

地域包括支援センターにおける精神保健福祉士の役割に関する研究

ーテキストマイニングによるインタビューデータ分析を基にー

○ 北星学園大学 氏名 畑 亮輔 (6695)

中村 和彦 (北星学園大学・1616)

キーワード：地域包括支援センター、精神保健福祉士、テキストマイニング

1. 研究目的

高齢化の進展に伴い、認知症高齢者への対応が喫緊の課題とされているが、その役割を担う機関として地域包括支援センターが期待されている。しかし、全国の地域包括支援センターを対象に調査を行った「地域包括・在宅介護支援センターの機能強化及び業務の検証並びに改善手法に関する調査研究事業（2009）」では、地域包括支援センターの現状として認知症高齢者への支援に積極的に取り組んでいるものの、そこにおいて重要とされている医療機関や地域住民への働きかけが不十分であるという状況が明らかになっている。

このような状況を受け、A 県 B 市では平成 24 年度より市内の全地域包括支援センター（X カ所）に精神保健福祉士 1 名を配置し、地域包括支援センターの機能強化に取り組んできた。これまで地域包括支援センターに精神保健福祉士が 4 職種目として配置された事例はほとんどなく、先駆的な取り組みといえる。そこで本研究では、地域包括支援センターに配置された精神保健福祉士に対して、従来の 3 職種はどのような役割を期待しており、配置後にどのような影響があったのか、また精神保健福祉士自身はどのような役割を認識しつつ業務に取り組んでいるのかという点について検討することを目的とした。

2. 研究の視点および方法

本研究では上記研究目的に基づき、B 市内の地域包括支援センター職員を対象にインタビュー調査を実施した。調査対象は、B 市内の地域包括支援センターのうち、B 市の実情に詳しい研究者による紹介法を通して抽出した 4 カ所のセンターとした。インタビューは、従来の 3 職種及び今回新たに配置された精神保健福祉士の 4 職種（各職種 1 名ずつ）を対象とし、インタビューガイドを用いた半構造化面接をグループインタビュー形式で実施した。実施時期は平成 26 年 3 月である。

インタビューは IC レコーダーに録音し、録音記録に基づいて逐語録を作成した。そして、地域包括支援センターに配置された精神保健福祉士への役割期待や影響について検討するために、作成された逐語録に対して IBM SPSS Text Analytics for Surveys を用いてテキストマイニングによる分析を行った。分析では、まずテキストマイニングの基本となる形態素解析を実施し、言語学的手法を用いてカテゴリを作成した上で、カテゴリ間の共起関係について検討するために各カテゴリ間の重複度を示すカテゴリ Web を図示した。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮として、インタビュー実施前に書面にて、①研究の目的、②研究の方法、③研究を実施する者、④資料の開示（研究成果の発表とその際の匿名性の確保）、⑤研究協力の任意性（協力辞退による不利益な対応を受けないこと、いつでも同意を撤回できること）、⑥参加に伴う危害の可能性、⑦個人情報の取扱、⑧問い合わせ先の8点について説明した。説明の後、同意が得られた場合には、研究実施者と協力者が書名した同意書を2部作成し、両者が1部ずつ保管するという方法を用いて倫理的な配慮を確認した。また、これらの実施方法について北星学園大学の全学危機管理委員会による倫理審査を受け承認を得ている。

4. 研究結果

インタビューの逐語録に対する形態素解析を実施した。なお、形態素解析には精神保健福祉士の役割や配置による業務への影響に関連する発言に焦点を絞り分析を実施した。

分析対象がインタビューデータということもあり、形態素解析の結果抽出された各コンセプト（語彙）について、表現のゆれに関しては類義語の設定を、また冗長性に関して不要語の設定を行った上で再度抽出を行った。その結果、抽出されたコンセプトのうち出現頻度が高かったものは「いう(229)」、「ある(155)」、「思う(121)」、「ない(98)」、「認知症(98)」、「なる(81)」、「そう言う(74)」、「相談(64)」、「地域(61)」、「連携(52)」であった。

次に、抽出されたコンセプトを基に、言語学的手法を用いてカテゴリの作成を行った。カテゴリの生成後、『人』や『とこ』など今回の研究目的からは不要と考えられるカテゴリを削除した結果、『医療(34)』、『地域(70)』、『精神(83)』、『相談(81)』、『介護(27)』、『ケア(25)』、『連携(54)』、『機関(16)』、『支援(39)』、『対応(33)』、『包括(52)』、『家族(33)』、『障害(10)』、『センター(23)』、『予防(19)』、『専門(23)』という16のカテゴリが生成された。

5. 考察

形態素解析の結果から、地域包括支援センターに配置された精神保健福祉士の役割や業務への影響として、従来の3職種並びに精神保健福祉士は、「認知症」への対応や「地域」への働きかけ、また他機関（とりわけ医療）との「連携」等を認識していることが示されたといえる。これは、B市が地域包括支援センターに精神保健福祉士を配置する際の方針として、認知症高齢者支援、市民や医療関係者への働きかけの強化を掲げていたこととも合致する内容であり、現場の専門職たちはB市の意図を十分に認識しつつ業務に取り組んでいることが考察される。また、カテゴリWebにおいて『精神』が『介護』や『ケア』以上に、『連携』、『医療』そして『家族』といったカテゴリと強い結びつきを示していることも、このような考察を支持する結果といえる。認知症高齢者への対応が急務とされる現状において、地域包括支援センターへの精神保健福祉士の配置は一定の効果を示していることが推察された。今後は、この取り組みにおける課題等についても分析を行い、地域包括支援センターへの精神保健福祉士配置の意義について検討を進めることが必要である。